

22年度予算で見送られた森林整備地域活動支援金、合併処理浄化槽補助をしている循環型社会形成推進交付金800万円に影響があると思う。

その他にも見直された事業がある。内容がはっきりしていないので影響がつかみきれない状況である。

町長

政府は無駄遣いを減らすため、事業仕分けを行い、事業廃止、予算見送り、見直し、地方移管など仕分け結果が公表された。テレビ、新聞などで町民も承知しているが不安を感じている。本町にも影響があるのでは。

問 橋本眞一



政府事業仕分け
町への影響は

答　つかみきれない

大災害時の通信は万全か

答 アマチュア無線の協力が必要



防災訓練 (9月6日 正ノ石)

地震など大災害が発生した時、携帯電話、普通電話は通信が困難になるが、アマチュア無線の利用者と災害時に通信協力体制ができないか。

問
橋
本

町の防災訓練で、高吾北消防本部を中継し、防災無線で被災状況報告訓練も行っているが電波の届かない地域もある。

防災行政無線ではアンサーバック機能を50カ所設置しているが1カ所利用していると他が利用できない欠点がある。

アマチュア無線利用者を把握し、個々に活用していくことも必要と思う。

今後検討する。

答
町
長



公文書は職員が配達を

答 職員は余っていない

現在167人。全体としては多いが、総合支所方式をとっており、有り余っている状況ではない。

答 町 長

- 1 公衆トイレを含む、町内の清掃。
- 2 公文書の配達
- 3 間伐のための用地交渉
- 4 農産物の集荷販売

以上の四事業を、余った職員を配置して行ったらどうか。

問 西 森(常)

合併後23人減となっている。今後とも退職者の補充を抑制しながら、減員に取り組んでいきたい。

答
総務課長

合併後、議員は3分の1となったが、職員は類似団体に比べ50人多い。矛盾を感じないか。

西森常晴



間伐推進で町の活性化を！（下名野川）

問
西 森(常)

旧大正町の課長は、林道作業技術を勉強実践し、「田辺林道」と自分の名前を冠するまでの技術を会得し、町内の間伐指導を

してきた。

職員には「共汗共労」を実践してもらいたい。

答
町 長

住民サービスの向上には努めていく。

トマト 選果・加工施設を名野川に

答
検討する

問
西 森(常)

吾川地域振興基金で、藤原陽三議員は「引地公園」を、福原克彦議員は「田村に多目的広場」を提案し、事業が進行している。

私は、トマトの「選果・加工施設」を提案したがいまだ、手をつけていない。やる気はあるのか。

答
町 長

地域で採れたものに、付加価値をつけて、ブランド化していくことは重要だ。検討していく。



「ピュアトマト」収穫したトマトは、JAの日高選果場に送られる
(大板 船坂一男さんのハウス)

フードプラン

問
西 森(常)

大丈夫か。

答
企画課長

やっと黒字が出てきた。

問
西 森(常)

現在の地元食材使用は10%以下。

よそから買って赤字を出したのでは、「ソニア」の二の舞になるが。

答
企画課長

地元野菜を使うよう、工夫していきたい。

文故夫妻が受賞

継承に貢献



作業していました (1月18日 岩戸)

諸般の報告 町長 大石弘秋



青木幸雄・美香笑夫妻

青木幸雄氏 (土居)
瑞宝単光章を受章

表彰

21年度地域文化功労者表彰に「秋葉神社祭礼練り保存会」が四国で唯一選ばれた。
前仁淀川町選挙管理委員長長の渡邊助三郎氏が「選挙制度120周年記念総務大臣表彰」を、行政相談委員の片岡富士子氏が総務大臣表彰を受賞。
高知県産業技術功労表彰、彰商工業部門で尾崎孝次郎、文故氏ご夫妻が受賞。

新型インフルエンザ

感染による死亡や重傷者を減らす目的で、ワクチン接種を実施。12月4日現在、受診券は380件発行。

軽減措置で生活保護世帯と町民税非課税世帯は全額免除し、課税世帯も千円の自己負担額でできる。

医師住宅

医師確保の観点から、県医師確保推進課、へき地医療協議会から指摘を受けた医師住宅は、建築後30年余り経過しており、老朽化が著しく支障がある。現在は職員住宅などを使用しているが、整備が急務であり、四国電力店舗跡を検討。

定額給付金

給付総額は1億1994万円で99・8%の支給率となり、申請者は給付対象3475世帯のうち3459世帯で、未申請16世帯の17人。

子育て応援特別手当

6月議会では455万円の補正予算は、政権交代で事業が廃止となり、全額を減額。

尾崎孝次郎・

ー 土佐和紙の



中越 巖氏



故古味益則氏

故古味益則氏（長者）
旭日単光章を受章

中越 巖氏（別枝）
旭日双光章を受章



「こうぞ蒸し」お二人が仲良く

10月3日にリニューア
ルオープンした「中津溪
谷の森」の10・11月の
利用状況、温泉は昨年
6466人に対し609
8人、宿泊は昨年686人
に対し542人と減少して
いる。レストラン関係は
宿泊客も併せると昨年424
0人に対し4821人と
581人の増となっている。
これはオープンしたばかり
というのと、1階、2階
のレストランを有効活用
し、昼食、夕食の予約制
を行うなど従業員が一
丸となって取り組んだ

ゆの森

森林の保全や化石燃料
代替えによるCO₂削減、森
林整備による地域の活性
化や雇用の場の確保など、
地球温暖化対策に重要な
課題と考える。
今後は県や関係機関と
連携し、仁淀川流域市町
村と協議したい。

ソニア

資金不足から事業の継
続が困難となり、経営破
綻の危機に直面している。
ソニアから本町議会に
提出された支援要請のと
おり、多額の資金を投入
した土地や施設等の財産
を有効に活用し、地域の
木材流通拠点が再建でき
るよう専門家、3町の議
会や町関係者で協議検討
されるよう願っている。

バイオマス

結果と考える。
ボーリング工事は地下
130m掘削の結果、毎分120
ℓの冷泉を得ることがで
き、温泉成分の硫化水素
が含まれ、温泉と認めら
れる判断基準はクリアし
ている。

17年12月から取り組ん
でいるバイオマスエネル
ギー地域システム化実験
事業は22年3月で終了す
る。